



安行小だより

安行小学校 7月号

令和3年7月1日

目指す学校像

光る所を伸ばし、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校

良さを見つけ称賛することから

校長 池田 光伸



梅雨明けが待ち遠しい時期となりました。早いもので、あと3週間で夏休み。各学年、各学級で子ども主役の取組が一段と活発になってきました。

ところで、嬉しいことがありました。それは、ある朝のことです。今春、本校を卒業した安行中学校1年生のKさんが、「校長先生、聞いてください。この通学班の副班長さんが、トラックが角を曲がる時に、巻き込まれないように手を挙げて、通学班がいることをアピールしていました。そしてお辞儀をして、トラックの運転手さんに気を付けてもらったお礼をしていたんですよ。」私はこの副班長の安全や礼儀についての判断と行動は、もちろん嬉しかったのです。しかし、それと同じくらい、この中学1年のKさんについても、感じるがありました。昨年度安行小で進めていた「光るところを認め合う活動」が生かされ、卒業後もこうやって「良さ」を見つけ、そして伝えられていることについてです。

「他の子の良さを発見し、称賛できる」ということが、いつかこの生徒の夢である教職に就いた時も、きっと生かされるな、と思ったことでした。

さて、本校では、「愛されることによって、子どもは伸びる」という信念のもと、「子どもの光るところを認め、褒め、鍛えることで伸ばし、自己肯定感を高める」ことに取り組んでいます。これを推進するための組織、「光るところを伸ばす」プロジェクトチームが、「褒める」ということについて、まとめたものをご紹介します。

○良い褒め方①＝「事実」＋「感謝」＋「価値」

例：「雨が落ちて来ないように、窓を閉めてくれたんだね（事実）。ありがとう（感謝）。気遣い上手だねえ（価値）。」

○良い褒め方②＝プロセス中心褒め…結果よりも、努力・

過程・試行錯誤した手順を中心に褒める。例：「最後までやり切ったね。」

「失敗しても諦めなかったね。」「いろいろな方法を試せたね。」

○褒められると、脳でドーパミンが出て、喜び、やる気、ポジティブ思考が引き出される。さらに、褒める側の脳にも、脳の活性化等良い影響有。⇒皆がハッピーに！

○テクニックよりも、相手の成長を願う、相手を思う気持ちが一番大切！

<「光るところを伸ばす」プロジェクトチームリーダー：浦野道春教諭調べ>



赤ちゃんヤギ誕生！

学校はもちろん、家庭、そして安行の地域全体で、良さを見つけ、褒め合い、高め合うことにより、自分自身や周りの人達を大切にできる安行っ子を育てていきたいですね。